

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500029		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑やまち		
所在地	和歌山県有田市山地44		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3091500029&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開苑5年、喧嘩も時折見られるが家族のような関係の構築が出来ている、畑に囲まれみかん農業が盛んである。近所のみかん採りに参加したりし、近隣との交流も図れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所職員は利用者の自己決定を何よりも重んじ、利用者が自らのペースで、その人らしく生活できるように側面的に支援している。近隣のみかん農家から招待を受け、利用者全員で参加のみかん採りは、季節を実感しながら利用者一人ひとりが心身の力を発揮できる絶好の機会となっている。又地域の夏祭りには出店参加を予定しており、地域の一員として、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っていきけるよう、関係づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ“自由・尊厳・歓び”のある生活が出来るよう管理者及び職員は理念を共有し実践に繋げている。	事業所理念はホールに掲げ、利用者や家族等の訪問者に明示している。事業所としては全職員が常に理念を念頭に置き、共有しながら実践に繋げる事が重要であると考えている。管理者と職員は、利用者を尊敬し、自己決定に任せ、歓びのある生活の実現に向けてケアサービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議にて地域の祭りに、当苑が今年度より参加することになる。地域の一員として日常的に交流を図れるよう努めている。	地域の自治会に加入しており、溝掃除等の行事に事業所全体で参加している。近隣のみかん農家、近くのスーパーの買い物客や店員の方々とは挨拶を交わし、会話をする等日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉系の学校の実習の受け入れをし人材育成を積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、民生委員や地区長等、地域の災害関連情報を受け、当苑の緊急時の対応の確認を行っている。	地域交流の基点である運営推進会議には、利用者、家族、民生委員、地区長、市職員等の参加があり、事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を報告し、話し合いを行っている。又地域の災害関連情報の提供を受け、避難対策の強化を図っている。	地域との交流は活発であり、事業運営への協力体制も築かれているが、関係者の負担を考慮して開催は年3回程度となっている。協力体制を確認し、より深める為にも開催回数の増加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは、苑の実情やケアサービスの状況を報告し助言を受けたり情報交換を行い質の向上に努めている。	市担当者から利用についての相談を受けた際や、運営推進会議への参加時等に、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、意見や助言を受けるという双方向の話し合いを行っており、築かれた協力関係の一層の強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、一人ひとり意のまま過ごして貰えるよう努め、身体拘束をしないケアを行っている。	事業所での研修だけでなく外部研修にも全ての職員が参加しており、代表者及び全ての職員は研修を通して身体拘束となる具体的な行為を正しく理解している。一般の家庭と同様に、日中は施錠せず、自由な出入りを確保する等身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、管理者及び職員は虐待についての知識を持ち利用者への対応に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当苑利用者に地域権利擁護事業や成年後見制度を利用しており管理者及び職員は制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者より十分な説明をし、利用者及び家族より理解及び納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情マニュアルを作成し窓口を設置し体制を整えている。利用者や家族からの意見については迅速な対応を実施している。	相談・苦情対応マニュアルを作成して、受付担当者の周知を図ると共に、全ての職員が対応できる体制をとっている。利用者については日頃の生活の中から、又家族等については面会の機会等に聞き取るよう努め、出された意見、要望には迅速に対応する事で運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回会議を開催し職員からの意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員は随時のカンファレンスで運営に関する意見や提案を取りまとめ、定例会議で議案を出している。議案に制約はなく、自由に意見を出し合い検討した上で、代表者の決定を受け運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービスの質の向上の為に資格取得を促し、向上心を持って働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修に参加し管理者及び職員は自己研鑽し知識のレベル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との情報交換を随時行っており、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の要望を把握し、入居時の不安が軽減出来る様に努めている。また、入居後も本人の気持ちに向きあい、信頼関係を構築し、本人が安心出来る関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が困っていること、不安なこと、要望等耳を傾け把握し、また信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族及び利用者と相談しどのような支援が必要であるか見極め対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し尊敬の念を持ち対応している。また、本人が活躍出来る場を提供し自信に繋げられるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、家族との時間を作り家族の意向の把握に努め共に本人を支えていく関係を築けるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所(自宅、かかりつけ医、歯科、美容院、喫茶店等)との関係が継続出来る支援に努めている。	墓参りや正月の帰宅等の外出については家族等に協力を依頼し、行きつけの美容室や喫茶店等へは職員が同伴しており、本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が継続できるよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共有空間だけではなく居室内においても自然に関わることの出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の移転先等、家族や本人の望みを傾聴し相談を受けたり助言等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しを傾聴し毎日の表情や言動を観察・記録し職員間にて共有、本人の意向の把握に努めている。	日々の生活の中での傾聴や観察を通して一人ひとりの思いや意向の把握に努めており、SOAP方式を活用して情報を共有し個別処遇に取り組んでいる。把握が困難な場合には、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、本人本位に検討してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートの活用や、家族及び本人からの情報を収集し支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動等記録し職員間にて情報の共有をし、現状の把握に努めるようにしている。また、自己決定、自己選択が出来るよう対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケース記録を活用し、本人の思っている事や精神・身体状況を把握し個々のニーズの把握に努め介護計画作成している。	利用者一人ひとりのニーズを把握すると共に、面会時等を利用しての家族からの聞き取りや、かかりつけ医との話し合いから得た意見やアイデアを取り入れた介護計画を作成している。モニタリングによる気づきを反映させる為定期的見直しだけでなく、随時の見直しを行い、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り及びケース記録を活用、職員間の情報の共有をし、状況変化に対応し随時見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化を察知し柔軟に対応が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防の協力を得て文化・教育機関への行事参加をし、ボランティアの活動の受け入れをしている。また、地域のスーパーを利用し馴染みの関係を作り、社会との繋がりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関の受診の継続とかかりつけ医は2週間に1回往診に来ている。かかりつけ医とは、相談、助言をもらえる信頼関係が築けている。	事業所の嘱託するかかりつけ医の診療は、定期の往診の他、急変時も可能であり情報を共有しながら信頼関係を築き、適切な医療が受けられるよう支援している。又入居前の医療機関への継続診療の希望があれば家族等の協力を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回看護師に健康チェックを行って貰い利用者の体調変化がないか確認し、必要時はDRに相談し指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供し早期退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族の意向を優先し、DRとの連携を図り、状態変化や方針についての話し合いの場を設け安心して終末期を迎えられよう取り組んでいる。	入居時に事業所の方針を説明し、重度化や終末期の看取りにも対応できる事を伝えているが、本人や家族の意向の変化、医療の必要性から入院となる場合が多いのが現状である。事業所としては本人や家族の意向の優先を基本としながら、状態に応じ本人、家族、かかりつけ医等関係者と話し合い、方針を共有してチームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応及び連絡体制を掲示しマニュアルを作成し、事故発生時に備えている。また、職員全員が救急救命の受講をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、誘導方法及び移動手手段の実践をし、確認し身につけている。また、訓練時は近隣住民の参加をしてもらい協力体制を築いている。	利用者が共に参加しての避難訓練を定期的に行っており、実践を通して全職員は、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけている。訓練時は消防の指導を受け、民生委員や近隣住民の積極的な協力が実現している。昨年8月の台風による水害時には地域との協力体制の実効が遺憾なく発揮された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握することに努め、人格を尊重しプライバシーを守り自尊心を損ねないような声掛けに注意し対応している。	職員が誘導の際等に利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねるものになっていないか、職員間で日常的に確認を行い利用者が自己決定しやすい言葉かけや対応に事業所全体で取り組んでいる。利用者の情報については、責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出しやすい雰囲気作りを心がけ自己決定が出来る場を提供するよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとを作らず一人ひとりのペースを大切に、生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は利用者の好みを取り入れつつ季節に合った服装が出来るようアドバイスをしている。また、定期的に整髪するよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを献立に取り入れ、買い物の段階から、調理、盛り付け、片付けまで役割分担し共に行うようにしている。	利用者の好みを取り入れた献立を事前に決めているが、一緒に買い物に出掛けた際には材料の揃い具合によって、利用者と相談の上献立を変える事もある。食事に関する一連の作業には出来る範囲で分担して利用者が参加し、活発なコミュニケーションの場となっている。菜園からの収穫物を献立に加える事も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ易い形態で提供し、食事量はチェック表にて把握している。水分提供は随時声掛けを行うと共に居室での確保も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの習慣のない利用者に対しては声掛けを行うと共にお茶の飲用を促している。また、自力にて行えない利用者に対しては一部介助にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりのトイレリズムを掴み、排泄の失敗を防ぎトイレで排泄が出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握する為排泄表を活用し、個別の排泄支援を行っている。リハビリパンツやパッドを使用する場合には根拠を明確にすると共に常に見直しを行いながら、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に事業所全体で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動への働きかけ及び水分・乳製品の摂取、食物繊維を多く含んだ食事を提供、また、DRの指示により服薬調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、日など決めず、自己決定にて入浴してもらっている。入浴の時間は個別にて対応が出来、コミュニケーションの図れる良い時間である。一人ひとりの希望に合わせて対応できている。	入浴の日や時間については利用者が決定し、職員は一人ひとりの希望に合わせて対応している。入浴を好まない利用者については無理強いせず、タイミングを見計らいながら実施に繋げている。入浴も又利用者の自己決定の好機と捉え、一人ひとりの意向を第一に、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり共有スペースにて落ち着く場所があり、自由に休息している。また、夜間安眠が出来る様、日中の活動を促したり、午睡を取り入れ生活リズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬処方をファイル化し、服薬状況の把握に努め服薬支援及び症状変化の対応できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を把握し活躍が出来る場を提供するよう努めている。また、食事会等計画し楽しみごとや気分転換が出来る支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関を施錠せず散歩や外出が自由に出来、また、一人で外出をしたい利用者に対し家族の了解を得た上でGPSを持ち外出してもらっている。警察及び地域住民の協力依頼も行っている。	利用者は日常的に戸外に出掛けており、近くのスーパーでは店員の方々と顔馴染みになる程である。医療機関への定期の通院も家族との交流の機会と考え、家族に協力を依頼している。遠出をする利用者についてはGPSを活用すると共に、警察や地域の方々の協力が得られており本人の意向に任せている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせお金の所持をしてもらい物品購入時等、必要であるかどうか見極め助言するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には前もって協力依頼をし、本人希望時自ら電話が出来る環境の提供をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間における不快や混乱を招く原因を排除するよう努めている。季節感を感じて貰えるような風物を採り入れている。	共用の空間の五感刺激には全職員が日常的に注意を払い、居心地よく過ごせるよう配慮している。ホールや廊下への飾り付けや装飾品は家庭的な雰囲気をかもし出しており、調度品の配置にも利用者一人ひとりが活動しやすくなるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で一人ひとり、落ち着ける場所が自然と決まっており、思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを置き本人が居心地よく生活が送れるようにしている。	居室には、本人や家族と相談の上、整理ダンス、写真、化粧品等の使い慣れた馴染みの物を置いており、自宅との違いを感じさせない環境となっている。職員は本人の意向を確認しながら利用者一人ひとりがその人らしく落ち着いて過ごせる居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動が出来る様に施設内をバリアフリー化し、出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。		